



このドキュメントでは、4D Packバージョン6.8.2において追加、改良された機能について説明します。

新しいコマンド

“ユーティリティ” テーマに新しいコマンド **AP ShellExecute** が追加されました。

AP ShellExecute

AP ShellExecute (fileName{; mode{; param}) → 倍長整数

引数	タイプ	説明
fileName	文字列	→ 起動したいファイル名
mode	倍長整数	→ 起動する時のウィンドウの状態 (Widows) 同期モード (Mac OS)
param	テキスト	→ アプリケーションパラメータ (Windows)
Function result	倍長整数	← 0ならば、実行成功。 それ以外の値はシステムエラー。

AP ShellExecute コマンドはアプリケーションやドキュメントを起動させることができます。

注：

このコマンドは AP Sublaunch と似た機能を持っていますが、3番目の引数を備えて、Windows環境での親和性を高めています。

Windows 環境では

引数< fileName >には、開きたいドキュメントまたは起動したいアプリケーションのフルパスを指定します。もし、ストラクチャファイルと同じ階層、もしくは、それ以下の階層にあるドキュメントやアプリケーションを指定する場合は、ファイル名だけかストラクチャファイル階層以下の相対パスだけを指定しても動作します。

ドキュメントを指定した場合、関連するアプリケーションを Windows が判定し起動します。

引数< mode >は、アプリケーションが起動するウィンドウの表示モードを指定します。

- 0：通常の状態のウィンドウ
- 1：フルスクリーン状態のウィンドウ
- 2：タスクバーに入った状態

引数< param >には、アプリケーションを起動する時にパラメータとして利用したい値を渡します。例えば、Web ブラウザを起動する場合は、この引数に特定の URL を渡すことが出来ます。

注：この引数は Windows 環境でのみ意味を持ちます。MacOS 環境では無視されます。

Macintosh 環境では

引数< fileName >には、開きたいドキュメントまたは起動したいアプリケーションのフルパスを指定します。もし、ストラクチャファイルと同じ階層、もしくは、それ以下の階層にあるドキュメントやアプリケーションを指定する場合は、ファイル名だけかストラクチャファイル階層以下の相対パスだけを指定しても動作します。

ドキュメントを指定した場合、関連するアプリケーションを MacOS が判定し起動します。

引数< mode >は、ドキュメントやアプリケーションの起動処理を同期モード（1 を指定）で行うのか、非同期モード（0 を指定）で行うのかを指定します。

例題：

▼ この例題は、ディスクのルートレベルに置かれた Word® 書類を開くものです。

```
`Windows の場合
$err:=AP ShellExecute ("C:\Test.doc")
`MacOS の場合
$err:=AP ShellExecute ("HardDisk:Test.doc")
```

- ▼ この例題は、デフォルトの Web ブラウザで 4D 社のサイトをフルスクリーンモードで開くものです。

```
$err:=AP ShellExecute ("www.4d.fr";"1")
```

- ▼ この例題では、Netscape ブラウザで 4D 社の Web サイトをフルスクリーンで開きます。(Windows)

```
$err:=AP ShellExecute ("C:\Program Files\Netscape\NETSCAPE.EXE";"1";"www.4d.fr")
```

- ▼ この例題では、Windows のエクスプローラで、C ドライブ直下にある "Music" フォルダを通常状態のウィンドウに開きます。

```
$err:=AP ShellExecute ("C:\WINDOWS\explorer.exe";0;"C:\Music")
```

変更されたコマンド

AP PrintRec to text

AP PrintRec to text (テキスト) → 戻り値

引数	タイプ		説明
テキスト	テキスト	←	パラメータを含んだテキスト
戻り値	倍長整数	←	エラー -1: パラメータにアクセスできない場合 -2: テキストが再割り当てできない場合 -3: 正しくテキストへ変換できなかった場合

説明

互換性の注意: 4D Pack バージョン 6.8 以降、このコマンドは MacOS 上では動作しません。

■ Macintosh 上で、**AP PrintRec to text** は、プリント設定を構成する 120 バイトのコピーをテキスト変数内に返します。

■ Windows 上で、このコマンドは、Windows のプリント設定に含まれるテキスト編数値を返します。

バイトごとにパラメータを分析したり、**AP Text to PrintRec** コマンドを使用して修正することができます。このコマンドの利点は、2 つのワーキングセッションでまたはページによって異なった設定を用いている場合に、同じプリント設定を使用できることです。

この関数は以下のエラーを返します。

- パラメータにアクセスできなかった場合は-1を返します。
- テキストが再割り当てできなかった場合は-2を返します。

参照

AP Text to PrintRec

AP Text to PrintRec

AP Text to PrintRec (テキスト) → 戻り値

引数	タイプ		説明
テキスト	テキスト	→	パラメータを含んだテキスト
戻り値	倍長整数	←	エラー
			-1：プリント設定にアクセスできない場合
			-2：テキストが120バイト以下だった場合

説明

互換性の注意：4D Pack バージョン6.8以降、このコマンドはMacOS上では動作しません。

この関数は以下のエラーを返します。

- プリント設定にアクセスできなかった場合は-1を返します。
- テキストが120バイト以下だった場合は-2を返します。

AP PrValidate 関数を使用して、これらのパラメータが正しいかどうか確認してください。Windowsでは、整数または倍長整数を含んでいるフィールドのバイトスワップについても考慮に入れておく必要があります。

エラーコードを調べることで、このコマンドが正常に実行できたかどうかを知ることができます。

AP Text To PrintRec は、Windows印刷設定パラメータをテキストとして受け取り、新たな印刷設定として使用します。

参照

AP Pr_Validate